様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2016
課題番号：２４５２０２７０

研究課題名（和文）〈知識の枠組み〉と南北戦争前アメリカ散文―〈ライフ〉をめぐる知識史

研究課題名（英文）Epistemological Frameworks and Antebellum American Prose

研究代表者
鷲津　浩子（WASHIZU, Hiroko）

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：３０１４９３７２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：平成24年度に開始した「〈知識の枠組み〉と南北戦争前アメリカ散文――〈ライフ〉をめぐる知識史」は、いわゆる文学テクストをとりあげながら同時代の〈知識の枠組み〉を再現しようという試みであった。
研究期間における成果は三段階に分けてまとめられる。第一に死生観を中心にとりあげたもので、墓石と墓地形態の変化に現れた死生観、化学麻酔の発明と死生観、緑メガネと啓蒙思想を検討した。第二には、産業革命による環境変化としてアレクサンダー・フォン・フンボルトと同時代のアメリカ（ことにソロー）をとりあげた。さらには〈ライフ〉の法医学的解釈の問題へと発展し、セクシュアリティ、酒毒と狂気、毒薬学を考察した。

研究成果の概要（英文）：Our project “Epistemological Frameworks and Antebellum American Prose” (2012-16) aims to reconstruct multilayered epistemological frameworks in literary texts written in/about the US during the years of 1830-60. The outcome in three phrases includes: (1) thanatopsis change inherent in cemetery and marker designs, thanatopsis change resulting from the invention of chemical anesthesia, the “green spectacles” in context of the Enlightenment ideas, (2) climate change caused by the Industrial Revolution, (3) three topics of the early 19th-century forensics: sexuality, insanity from drinking, toxicology.

研究分野：アメリカ文学、知識史、知識の枠組み

キーワード：知識の枠組み　南北戦争前アメリカ散文　ライフ　知識史

１．研究開始当初の背景

文学を他の分野（例えば科学、芸術、宗教など）と〈わかる〉ための〈知識の枠組み〉を共有するものととらえ、世界や宇宙のメカニズムの一貫性や規則性を追求する西洋知識史のなかでとらえなおすとともに、個別テクストを精読する研究をこれまでやってきた。この過程で 2～3 年に 1 度テーマを見直し、英語では 1 語でも日本語ではいろいろな概念を含むものを選んだ。前回の〈デザイン〉に次いで、今回は〈ライフ〉であり、そこから派生した〈ロー（law)〉を今回の研究課題とした。

２．研究の目的

平成 24~28 年度には、南北戦争前アメリカ散文を材料にまず〈ライフ〉を生命・生物・生活・生涯・生気・生体などの多様な意味を持つキーワードととらえ、それが文学という多層性を持つテクストのなかでいかに扱われているかを論じた。さらには、その延長線上として法医学などに見られる宗教的掟・法学的規則・科学的法則という〈ロー（law)〉をとりあげ、同様の論を展開した。

３．研究の方法

いわゆる文学作品だけではなく、同時代の他分野の文献や資料を参照して、どのような〈知識の枠組み〉の中でこれらの知識が機能しているのかを考える。たとえば 1846 年の化学麻酔の成功は当時の死生観にどのような変化を与えたか、あるいは都市犯罪の捜査と裁判を構成するための法医学には、どのような法の概念が成立する必要があったのか、などである。

４．研究成果

南北戦争前の〈知識の枠組み〉は、チャールズ・ダーウィン以前のものであり、したがって宗教的な〈ライフ〉や〈ロー〉の概念を保ったまま、けれども新しい世界観や宇宙観を模索している状況の中で生成したものである。この新旧のせめぎあいが文学テクストのなかでどのように多層的に描かれているかを具体例をとりあげて論じた。

第一に、〈生〉と〈死〉の境界線を考えるために、1846 年マサチューセッツ総合病院で成功した化学麻酔をとりあげ、それ以前に麻酔の代用として期待されていたメズメリズムと比較した。この結果、これまで似非科学として捉えられがちだったメズメリズムは、少なくともエドガー・アラン・ポウの諸作品の中では〈生〉と〈死〉の境界線をまたぐ装置として機能していることを論じた（この点が、ポウとナサニエル・ホーソンとのメズメリズムに対する態度の違いとなっている)。

第二には、〈生〉に対する〈死〉の判定として法医学をとりあげ、19 世紀初頭の課題となっていたセクシュアリティ、毒薬学、狂気の 3 分野について、それぞれの詳細をリサーチするとともに、南北戦争前アメリカ散文と結びつけて論じた。具体的には、ポウの「マリー・ロジェの謎」をセクシュアリティと、ホーソンの「ラパチーニの娘」を毒薬学と、ポウの「黒猫」を酒毒と狂気とに絡めて論じた。このうち、「マリー・ロジェの謎」については、実際に起きた事件をもとにした探偵小説でもあり、タバコ売り（小説では香水売り）という男性顧客相手の職業が事件の推理にいかに影響を与えたかを論じている。「ラパチーニの娘」については、これまで道徳的に偏っていた virtue が薬草の効能とも読み替えられることから、薬学ことに毒薬学から「紫の花」を解釈しなおした。「黒猫」と飲酒問題はこれまでも論じられてきたが、ここでは飲酒を狂気をもたらす毒ととらえなおすことによって、法医学的解釈をつけくわえている。

また、これらの直接〈ライフ〉や〈ロー〉に関わる問題だけではなく、これらから派生した問題として同時代の環境問題にも手を染めた。〈ライフ〉は環境と無縁に存在しえ

ないし、環境には自然法則があると同時にそれを規制・制御する法律も必要だからである。この課題については二つの方向性を立てた。ひとつには、都市化が住環境をどのように変えたかということであり、ここには公園墓地、ランドスケープ・ガーデニング、都市公園運動などの課題がふくまれる。いまひとつは、〈環境〉という言葉じたいが喚起する気象や土地の関わり、そしてそれらの知識を共有する人々のネットワークである。後者は、プリンスエドワード島（カナダ）で開催された「気候変動」に関する国際学会で発表し、前者は2017年7月にヨーク（連合王国）で行われる国際会議のパネルで発表される予定になっている。

また、ここ数年間かかわってきた単著本『文色と理方』（南雲堂）も2017年9月に刊行が決まった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　6件）

1. 鷲津浩子「監獄と墓場の現象学――『緋文字』の〈法〉と〈生〉」（科学研究費研究成果報告書）2017年、1－11。査読無（編集者）

2. 鷲津浩子「酒毒と狂気――エドガー・アラン・ポウ『黒猫』の法医学」（科学研究費研究成果報告書）2017年、63－78。査読無（編集者）

3. 鷲津浩子「アンドリュー・ジャクソン・ダウニングに関する覚書」『ガーデン研究会ジャーナル』3（2017）: 11-15.　依頼原稿

4. Hiroko Washizu, “Virtuous/Poisonous Potency,” *Review of American Literature* 25 (2017): 205-11.　査読無（編集者）

5. 鷲津浩子「アメリカの庭園／庭園のアメリカ」『イギリス・ガーデン研究会雑誌』2（2015）：39－45．依頼原稿

6. Hiroko Washizu, “Dead or Alive: (Pre-) Anesthetic Trance in Edgar Allan Poe’s Stories,” *Review of American Literature* 24 (2014): 52-60.　査読無（編集者）

〔学会発表〕（計　11件）

1. Hiroko Washizu, “ Death in the Garden: Landscape Gardening in Poe ”（2017年7月28日、British Association of the Romantic Studies）　ヨーク（連合王国）

2. Hiroko Washizu, “ In Matters of Spirits: Forensics of Intemperance in Edgar Allan Poe ’ s ‘ The Black Cat ’ ”（招待講演、2016年7月28日、International Association of University Professors of English）ロンドン（連合王国）

3. 鷲津浩子「アメリカの庭園／庭園のアメリカ」（2015年9月18日、イギリス・ガーデン研究会）イーグレ姫路（兵庫県姫路市）

4. Hiroko Washizu, “ Physical Geography of Climate ”(2014年5月29日、Climate Change Conference）　シャーロットタウン（カナダ）

5. 鷲津浩子「『ラパチーニの娘』の毒薬学」（2014年10月19日、筑波大学アメリカ文学会）筑波大学（茨城県つくば市）

6. Hiroko Washizu, “Virtuous/ Poisonous Potency ”（2014年9月27日、International Conference in

Romanticism）ミネアポリス（アメリカ合衆国）

7. Hiroko Washizu, “ Reading Dead Bodies: Forensic Medicine and Detective Stories ”（招待講演、2013 年 7 月 18 日、International Association of University Professors of English）北京（中華人民共和国）

8. Hiroko Washizu, “ Dead or Alive: (Pre-)Anesthetic Trance in Edgar Allan Poe ’ s Stories. ”（2012 年 6 月 9 日、Conversazioni in Italia）フィレンツェ（イタリア）

9. Hiroko Washizu, “Taming Beasts: Metaphorical Presentation of Natural Disasters in the Edo Japan”（2013 年 6 月 7 日、IGALA） ヴァンクーヴァー（カナダ）

10. Hiroko Washizu, “Dead or Alive: Invention of Anesthesia and Its Impact on Life”（2012 年 9 月 9 日、筑波大学アメリカ文学会） 筑波大学（東京都文京区）

11. Hiroko Washizu, “How to Tame a Beast”（2012 年 9 月 29 日、Society for Literature, Science and the Arts） ミルウォーキー（アメリカ合衆国）

〔図書〕（計　1 件）

1.　鷲津浩子『文色と理方：知識の枠組み』（南雲堂）、2017 年 9 月、273 ページ

５．研究組織

(1)研究代表者

鷲津 浩子（WASHIZU, Hiroko）
筑波大学・人文社会系・教授
研究者番号：30149432